図書館だより 第27号

鹿児島国際大学附属図書館報

The International University of Kagoshima Library

－目　次－　contents

■図書館という空間にて …… 2p
「図書館そして書物との出会い」　田中　顕悟
「学生時代の図書館通い」　野元　美佐

■先生方による読書案内～忘れえぬ著作～ …… 2～3p
「常識を、疑え。」　富澤　拓志
「わたしの好きな作家」　菊地　裕幸
「稀代の書」　武田　篤志

■あなたのお悩み解決し隊!!（第３回：CiNiiで悩みを解決!!） …… 4～6p

■OPACが変わりました!! …… 7p

■Library Report …… 8p

図書館という空間にて

図書館そして書物との出会い

福祉社会学部講師　田中　顕悟

この「図書館だより」をご覧の多くの方々が、多かれ少なかれ、これまで在学してきた学校での図書館や、地域にある図書館と、そこでの書物との出会いがあったことでしょう。私自身も、鹿児島県だけでなく関東・北陸・中部・四国等の様々な地域に移り住み、それぞれの場所での図書館を訪れ利用する中で、多くの体験と貴重な時間を持つことができました。中でも、本学の図書館と私との出会いは、現在の新しい図書館だけでなく、18年前の現在のユーカリ会館が図書館であった時代にさかのぼります。当時は、それまでの小中高等学校と違った雰囲気の図書館が物珍しく、また、非常に分厚く難解な内容の専門書に気後れしながらも、レポート作成時や試験前に通っていた記憶があります。さらに、当時は、資料の検索も今のようにオンライン化されていない部分も多くあり、手当たり次第に目当ての資料を求めて書架の間をうろうろしていたことも多くありました。その中で手にした、高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャルワークを考える―社会福祉の方法と実践―』（川島書店・1981年）は、当時、勉強を進めていた社会福祉実践の大切さだけでなく、その大きさと深さ、そしてある意味の厳しさを教えてくれたように覚えています。さらに、この書物との出会いは、その後の私の生活の中に色々な人そしてさらなる書物との「出会い」を与えてくれました。今更ですが、図書館とは、書物そして人が行き交いそして出会いを生む「駅」のような場所に思える今日この頃です。

学生時代の図書館通い

国際文化学部講師　野元　美佐

本に恵まれたとはいえない家庭に育った私が、本を読む習慣を身につけたのは、大学生になってからだったと思う。大学に入って図書館が身近になり、興味のある本を借りては読むようになった。時には一頁も読まないままに返却日が来てしまうこともあったが、鞄の中につねに本が入っていることは、気持ちを豊かにしてくれた。

海外旅行が趣味だった私は、アルバイトをしては、ヨーロッパ、アフリカなどを旅していた。旅行前には、これから行く地域について調べ、旅行後には、行った地域のことをもっと知りたくなり、ますます熱心に図書館に通った。また、出会った本から、行きたい国を決めることもあった。

この旅行好きが高じ、将来アフリカのことを研究しようと思った私は、今度は大学院受験のために図書館に通い始めた。毎日閉館まで残り、本を読み、ノートを取った。夜遅くまで残る学生はだいたい決まっており、話はしないものの、みな顔見知りとなった。それぞれ自然と指定席ができ、私も決まった場所に陣取り、勉強をした。それは、大学受験の勉強よりも、ずっと自由で楽しいものだった。今思えば、私はとても贅沢な時間を図書館で過ごしていたのである。

先生方による読書案内～忘れえぬ著書～

常識を、疑え。

経済学部助教授　富澤　拓志

星野力著『進化論は計算しないとわからない　―人工生命白書―』（467.5//HT・地下和書）

現代の進化論に従えば、あらゆる生物は偶然に生まれる突然変異と環境に適応する生存競争とによって形作られたという。だがハチやアリについて習った人なら、その社会の見事な協力体制が、ただ突然変異と生存競争とを繰

り返すだけの盲目的な「進化」によってできたものだということをにわかに信じるわけにはいかないだろう。実際、遺伝と突然変異、自然選択というたった三つの仕掛けだけから、数百万種とも言われる多様な生物が生まれ、そして食物連鎖や寄生や共生などの複雑きわまりない生態系が作られるなんてことがあり得るだろうか。進化論には古くからこうした疑問が投げかけられてきた。

著者によれば、こうした疑問は「人間の思考があまり論理的とはいえない」ことから生まれてくる。そこで著者はコンピュータで「人工生命」を作り、何兆回もの計算を繰り返すことで「進化」が何を生み出すかを確かめていく。数々のロボットやプログラムが、「生きている」としか言いようのない行動を獲得していく様は、確かにこの単純な進化の仕組みが途方もない複雑さを生み出せることを感じさせてくれる。直感や常識でものごとを判断することの危うさを正面から示してくれる本である。

わたしの好きな作家

経済学部講師　菊地　裕幸

新田次郎著『孤高の人』（新潮文庫・上下巻　908//S.10//22-2・3階文庫・新書コーナー）
『槍ヶ岳開山』（新田次郎全集第18巻　913.6//N.9//18・地下和書）

私には大好きな作家が二人います。一人は畑正憲（ムツゴロウ）さん、もう一人は新田次郎さんです。

私は北海道生まれということもあり、雄大な大自然で動物達とさまざまなドラマを繰り広げるムツゴロウさんのテレビが大好きでした。その流れでムツゴロウさんの本を読むようになり、特に大学時代は授業にもろくに出ずに家でゴロゴロしながらムツゴロウさんの本をひたすら読みふけっては、北の大地を懐かしんでいたものです。

新田次郎さんは、『国家の品格』の作者藤原正彦さんのお父さんとしても知られていますが、私は新田次郎さんの山岳小説が大好きで、これも大学時代に読みまくっていました。中でも『孤高の人』と『槍ヶ岳開山』は、特に印象に残っています。その影響も強くあってか、大学時代から山登りをするようになり、都会の生活に疲れては癒しと安らぎを求めて、夜行列車に乗って信州の山々へよく出かけていたものです。

ムツゴロウさんにしても新田次郎さんにしても、私にとってのキーワードは「自然」であるように思います。これは今でも同じで、鹿児島へ来てからもよく霧島へ山登りに行ったり高千穂牧場などへソフトクリームを食べに行ったりしています。

皆さんもぜひ図書館で自分の好きな作家を探し当ててください。

稀代の書

福祉社会学部講師　武田　篤志

吉本隆明著『言語にとって美とはなにか』（1 - 2巻　801//Y65//1-2・地下和書）

吉本隆明の『言語にとって美とはなにか』（初版1965年）は、人間の存立がどのような形で疎外され、行動や表現や意識に現れてくるのかを言語の領域から探求した書です。本書はそれ以前の言語論や文学史を根本から覆すだけでなく、言語を考えるうえでの新たな領域を開示しました。それが、言語以前の段階を設定することから導き出された「表出」という領域です。これは本書の基本概念をなし、著者は言語に自己表出と指示表出の二つの面があるといいます。自己表出とは、胃痛で思わず「うっ」と言ったときのように、誰かに伝える目的で発したのではない内部だけで出てくる表現、指示表出とは何かを指し示すための表現です。この二つからなる織物のようなものとして言語の本質が捉え直されています。これを出発点に、表現転移論・表出史では、現実の文学史とは独立に流れる言語表出の歴史・時間が明らかにされ、構成論では、指示表出の非連続として詩、物語、劇が論じられます。さらに内容と形式、立場論と展開されていきますが、いずれにせよ、およそ表現するということ全般に拡張可能な論理が示されています。40年以上も前に書かれた本にもかかわらず、ここで示された思考は今もなお他のさまざまな分野へ波及していく必然の力をもっています（著者自身も後に、解剖学者の三木成夫の仕事と本書を対応させて生命論としてのさらなる展開を示唆しています）。読む者を触発しつづけてやまない、まさに稀代の書といえるのではないでしょうか。

あなたのお悩み解決し隊!!

第３回：CiNii で悩みを解決 !!

■ CiNii とは

国立情報学研究所が提供している論文情報データベース。登録されている論文の検索・またその論文の引用文献情報（どのような論文を引用しているか、どのような論文から引用されているか）を見ることができる。また、本文リンクの表示があれば、論文の全文を参照することもできる。

CiNii はどこから入るの？

●学内から入るには…

鹿児島国際大学トップページメニュー → IUK ホームページ　鹿児島国際大学 → 図書館 → 情報検索

●学外から入るには…

http://www.iuk.ac.jp/~tosyokan/ （図書館 HP） → 情報検索 で見ることができます。

使い方

1．検索画面

検索語を入力し、検索をクリック。

簡易検索と詳細検索があるので、状況によって使い分けると便利。

2．検索結果一覧の表示

例として、ここをクリック!!

検索結果が一覧となって出てきます。興味のある論文名をクリックすると詳細画面が表示されます。
※出版年、雑誌名、被引用件数での表示順の変更や絞込みの検索も可能です。

3. 文献情報・引用情報の表示

4. 全文表示

5. Webcat Plusのリンクについて

3．文献情報・引用情報の表示の所蔵の欄にある Webcat Plus をクリックすると、国内の大学図書館の所蔵を確認することができます。

本文リンクなしの場合でもWebcat Plusの所蔵図書館一覧に本館の表示があれば、冊子体で論文を見ることができます。
本館OPACで所在を確認してください。

本学に所蔵がある場合はこのように表示されます。

所蔵図書館 2館	巻号<通し年月次>
鹿国大 図	3-10<1998-2005>+

※　所蔵図書館一覧に本館の表示がない場合は、他大学より取り寄せることができますので、図書館２階サービスカウンターまでお問い合わせください。

CiNiiってとっても便利な機能なのですね。

CiNiiは１つの論文情報だけでなく引用している（されている）論文を見ることもできたり、なかには本文を見られるものもあったりと、多彩な機能が満載！ぜひ活用して論文作成や勉強に役立ててくださいね。

OPACが変わりました!!

- POINT 1　予約ができます
- POINT 2　資料種別ごとに検索ができます（図書・雑誌・楽譜・視聴覚資料）
- POINT 3　多言語対応しています（韓国語・中国語）

本を予約するまで

Start!!

①検索キーワードを入力

困ったときは「ヘルプ」を押してね。

ココで資料区分や和洋種別を選べるよ。

POINT 2

探していた資料が「貸出中」

②貸出中の場合「予約」ボタンが表示されます。クリック!!

POINT 1

貸出冊数は１人５冊。貸出期間は２週間じゃ。

〈ユーザ認証画面〉

③利用者番号とパスワードに「学籍番号」を入力し、Loginをクリック

⑤予約完了!!予約資料が返却されたら、図書館から連絡があります♪

※終わったらログアウトをクリックしてね。

〈貸出・予約状況画面〉

④書名などを確認後、「予約」をクリック

Goal!!

Library Report

図書館学生モニター活動報告　～クリスマス展示について～

モニター活動の１つとして 12 月のテーマ展示をしました。モニター同士で話し合った結果、テーマは「クリスマス」にすることに。まず、各自で図書館内の資料からクリスマスに関連するものを集めて、モニター会で展示する本を選びました。今回は絵本・小説を中心に展示することにしました。表紙や中が見えるように置くことで、見た目がカラフルになりました。次に、展示のレイアウトや飾りつけを考えました。せっかく展示をするのだから、みんなに見てもらえるように目立つ飾りつけを作りました。画用紙を切り抜いて作った“Merry Christmas”やトナカイ、折り紙で作ったサンタなど「かわいい」と好評でした。なかなかの出来で評判が良かったので、次回も頑張ります。

（学生モニター一同）

新スタッフ紹介

今年度４月から図書館に勤務することになりました。図書館では情報整理係として、和書の目録作成を担当しています。情報整理係の魅力は、これまで見たことのないたくさんの本に出会えること、時間をかけてあきらめずに調べて問題が解決した時の達成感が得られること、また、諸先輩のみなさんにアドバイスをいただきながら、楽しく充実した毎日が過ごせることだと思います。一生懸命がんばりたいと思いますのでよろしくお願いします。

情報整理係　山元　　華

大学を卒業して、図書館に勤務するようになり、約９ヶ月が過ぎました。情報サービス係として、カウンター業務を担当しています。カウンターでの仕事は臨機応変に対応しなければならないので、最初の頃は慣れないことばかりで本当に大変でしたが、今では諸先輩に助けられながら、自分なりにがんばっています。図書館には本だけでなく、ＤＶＤやＣＤなども多数あるので、できるだけ多くの学生さんに利用していただきたいです。

情報サービス係　高岩　　梢

編集後記

新年がスタートしました。思い起こせば、昨年１月から学生からの要望に応えて、開館時間を 30 分早め、夏休みなどを除いて８時 30 分に開館することにしました。当初は早めた 30 分間の利用者は少数でしたが、PR 効果も手伝ってか、その後は増加しました。利用者からの要望全てに応じることはもちろん不可能ですが、可能な限り実現していくことによって、利用者との関係をより良好なものとし、利用者の皆さんと共に大学図書館という独特な空間をさらに充実させていきたいと考えています。（Ｙ・Ｎ）

図書館だより－鹿児島国際大学附属図書館報－　第27号　2007年１月31日発行
鹿児島国際大学附属図書館　〒891－0191　鹿児島市下福元町8850
TEL:099－263－0732　FAX:099－261－1198　E－mail:tosyokan@ofc.iuk.ac.jp
（URL）http://www.iuk.ac.jp/iuklibrary　（携帯URL）http://iuk02.iuk.ac.jp/nbp/index.html